

クロヒカゲ

新築の物置の完成祝賀のキノコ汁を頂いて、午後の行事は酒井さんによる「間伐」の勉強会でした。物置の機能ではありませんが、まだ中身を詰めていないので、観音開きのドア正面の壁をスクリーンにしての講義が行われました。リンケージプラザの研修室とは違って現場での勉強は記憶に残る率が高くなるような気がします。この日も気温27℃もあり、藪蚊がまだたかりますので、蚊除けの薫煙の燃料を補充していた筆者の周りをすばしこく飛び回ってシラカバの丸太に止まったのがクロヒカゲでした。9月14日13時30分頃と記録しておきます。この時期のことですから、翅が痛んでいます。



クロヒカゲは中型の地味な蝶です。澄川の森では最も頻繁に出会う蝶ですが、興味のない人の目には止まりにくいと思われれます。なにしろ森の中の暗い所が好きで、飛び方が敏捷でもあり、そこに止まったと思って近づいても、忍者のごとく見えにくいのです。しかも警戒心が強くてカメラで捉えるのが極めて難しいのです。

基地のテント周りでもよく見かけます。暗いテントの中にまで飛び込んできたりします。右上の写真

はシラカバの樹肌の白とのコントラストがはっきりして判りやすい映像となりました。活動の最盛期が過ぎて次世代に遺伝子を引き継いだ後と見えて、カメラを近づけても逃げませんでした。

翅の表はお世辞にも美しいとは言えませんが裏側は結構おしゃれです。蛇の目模様が地味な地肌 に 粹に見えます。

幼虫の食べ物はササ類なので、澄川の森は食べ物だらけです。分布は日本全国の他に朝鮮半島から中国、さらにサハリンや台湾にも広がっているようですから逞しいのです。



森林教室→